

# Symantec™ VirtualStore リ リースノート

Linux

6.0.1

# Symantec™ VirtualStore リリースノート

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

製品バージョン: 6.0.1

マニュアルバージョン: 6.0.1 Rev 0

## 著作権について

Copyright © 2012 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、Veritas、Veritas Storage Foundation、CommandCentral、NetBackup、Enterprise Vault、LiveUpdate は、Symantec Corporation または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載の製品は、ライセンスに基づいて配布され、使用、コピー、配布、逆コンパイル、リバースエンジニアリングはそのライセンスによって制限されます。本書のいかなる部分も、Symantec Corporation とそのライセンサーの書面による事前の許可なく、いかなる形式、方法であっても複製することはできません。

本書は「現状有姿のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性、不侵害の黙示的な保証を含む、すべての明示的または黙示的な条件、表明、保証は、この免責が法的に無効であるとみなされない限り、免責されるものとします。Symantec Corporation は、本書の供給、性能、使用に関する付随的または間接的損害に対して責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアと関連書類は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアと関連書類の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Symantec Corporation  
350 Ellis Street  
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

# Symantec VirtualStore リリースノート

この文書では以下の項目について説明しています。

- [このリリースノートについて](#)
- [コンポーネント製品のリリースノート](#)
- [Symantec VirtualStore について](#)
- [重要なリリース情報](#)
- [6.0.1 で導入された変更点](#)
- [システム必要条件](#)
- [修正済みの問題](#)
- [既知の問題](#)
- [ソフトウェアの制限事項](#)
- [マニュアル](#)

## このリリースノートについて

このリリースノートには **Linux** 対応の **Symantec VirtualStore (SVS) バージョン 6.0.1** に関する重要な情報が記載されています。SVSをインストールまたはアップグレードする前に、このリリースノートをすべてお読みください。

リリースノートに記載された情報は、SVSの製品マニュアルに記載の情報に優先します。

これは『Symantec VirtualStore リリースノート』の マニュアルバージョン: 6.0.1 Rev 0 です。始めに、このガイドの最新版を使っていることを確認してください。最新の製品マニュアルはシマンテック社の Web サイトで利用可能です。

<https://sort.symantec.com/documents>

このリリースのアップデート、パッチ、既知の問題に関する最新情報については、Symantec テクニカルサポートの Web サイト上の次の TechNote を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH141448>

## コンポーネント製品のリリースノート

このリリースノートに加え、コンポーネント製品のリリースノートを確認してから製品をインストールしてください。

マニュアルはソフトウェアメディアの次の場所で、PDF 形式で利用可能です。

`/docs/product_name`

シマンテック社は、システムの `/opt/VRTS/docs` ディレクトリにファイルをコピーすることを推奨します。

このリリースには、次のコンポーネント製品のリリースノートが含まれます

- 『Veritas Storage Foundation リリースノート』(6.0.1)
- 『Veritas Cluster Server リリースノート』(6.0.1)
- 『Veritas Storage Foundation Cluster File System High Availability リリースノート』(6.0.1)

## Symantec VirtualStore について

Veritas Storage Foundation Cluster File System High Availability (SFCFSHA) で動作する Symantec VirtualStore (SVS) は、仮想マシンを配備してホストするために最適化された、拡張性が高い、高可用性の NAS ソリューションとして役立ちます。

VirtualStore は、クラスタ全体の高可用性と線形スケーラビリティを提供する Cluster File System (CFS) をベースとして構築されています。

## 重要なリリース情報

- このリリースに関する重要な更新については、シマンテック社テクニカルサポート Web サイトの最新 TechNote を確認してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH164885>

- このリリースで利用可能な最新のパッチについては、次を参照してください。

<https://sort.symantec.com/>

- ハードウェア互換性リストには、サポート対象のハードウェアについての情報が含まれ、定期的に更新されます。サポートされているハードウェアの最新情報については、次の URL を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH170013>

Storage Foundation and High Availability Solutions をインストール、またはアップグレードする前に、最新の互換性リストをチェックして、ハードウェアとソフトウェアの互換性を確認してください。

## 6.0.1 で導入された変更点

この項では Symantec VirtualStore 6.0.1 の変更点の一覧を示します。

### SFHA Solutions 製品の新しいバージョンングプロセス

シマンテック社は、ストレージ、可用性、バックアップ、アーカイブ、および企業セキュリティ製品などの当社の異なる製品の配備に関して、お客様に統一されたエクスペリエンスを提供するためにバージョンングプロセスの単純化を行いました。この変更によって、全製品に 3 桁のバージョンが付きます。この方法に従い、最新の SFHA Solutions リリースはバージョン 6.0.1 として利用可能です。

### ソフトウェアメディア内のマニュアルの新しいディレクトリの場所

製品マニュアルの PDF ファイルは、ソフトウェアのメディア内の /docs ディレクトリに配置されるようになりました。/docs ディレクトリ内に各バンドル製品のサブディレクトリがあり、その製品固有のマニュアルがその中にあります。sfha\_solutions ディレクトリに、すべての製品に適用されるマニュアルが含まれています。

### インストールとアップグレードに関する変更

6.0.1 の製品インストーラには、次の変更点が含まれています。

#### ローカルにインストールされたインストールとアンインストールのスクリプトにリリースバージョンが含まれる

Veritas 製品を設定するためにローカルスクリプト(/opt/VRTS/install)を実行する場合、インストールされたスクリプトの名前にリリースバージョンが含まれるようになりました。

---

**メモ:** インストールメディアから Veritas 製品をインストールする場合は、引き続きリリースバージョンを含まない `installsvs` コマンドを実行してください。

---

インストールされたバイナリからスクリプトを実行するには、`installsvs<version>` コマンドを実行します。

`<version>` はピリオドやスペースを含まない現在のリリースバージョンです。

たとえば、製品の **6.0.1** バージョンを設定するには、次のコマンドを実行します。

```
# /opt/VRTS/install/installsvs601 -configure
```

## ディスクグループの VxVM プライベートリージョンバックアップの事前点検 (アップグレード実施前)

インストーラは、アップグレード実施前に、VxVM プライベートリージョン内にあるすべてのディスクグループの設定ファイルの最近のバックアップが `/etc/vx/cbr/bk` ディレクトリに保存されていることを検証します。保存されていない場合は、警告メッセージが表示されます。

---

**警告:** `/etc/vx/cbr/bk` ディレクトリをバックアップします。

---

## コーディネーションポイントサーバー設定に関するインストーラのサポート

インストーラで `-configcps` オプションを使用して CP サーバーを設定できるようになりました。CP サーバーを設定するこの機能は、インストーラに組み込まれるようになりました。以前のバージョンでは、CP サーバーを設定するには `configure_cps.pl` スクリプトを使う必要がありました。

応答ファイルを生成して、CP サーバーを設定することもできます。インストーラで `-responsefile '/tmp/sample1.res'` オプションを使って CP サーバーを設定できるようになりました。

詳しくは、『Veritas Cluster Server インストールガイド』を参照してください。

## チューニングファイルテンプレートのサポート

インストーラを使って、チューニングファイルテンプレートを作成できます。`-tunables` オプションを指定してインストーラを開始すると、サポート対象のすべてのチューニングパラメータのリスト、チューニングファイルテンプレートの場所が表示されます。

## 追加のインストール `postcheck` オプション

`postcheck` オプションが追加の検査を含むように拡張されました。

インストーラのインストール後チェックオプションを使用することで、次の検査を実行できます。

- すべての製品に対する全般的な検査。
- VM (Volume Manager) の検査。
- FS (ファイルシステム) の検査。
- CFS (Cluster File System) の検査。

## Symantec VirtualStore に関する変更

6.0.1 の Symantec VirtualStore (SVS) には、次の変更点が含まれています。

### Citrix XenDesktop

Symantec VirtualStore (SVS) 6.0.1 は、Citrix XenDesktop とともに使用する領域最適化済みの仮想マシンをすばやく作成できます。VirtualStore vCenter プラグインは、VMware vSphere、Citrix XenDesktop、VirtualStore 間の統合を提供し、仮想マシンの管理を容易にします。

### Symantec VirtualStore 6.0.1 は、VMware vSphere 5.0 に対してテストする必要がある

Symantec VirtualStore (SVS) 6.0.1 はテスト済みであり、シマンテック社は、ファイルシステムおよび vSphere プラグインを含むすべての SVS の機能が VMware Vspere 5.0 と共に使われたときに正しく動作することを証明します。

## LLT への変更

このリリースには、LLT への次の変更が含まれています。

### /etc/llttab ファイルの peerinact の値の設定

シマンテック社は、peerinact の値を 0 に設定しないことを推奨します。peerinact の無限タイムアウト機能を設定するため、peerinact を大きい値に設定してください。サポート対象の値の範囲は 1 から 2147483647 までです。

## I/O フェンシングに関する変更

ここでは、I/O フェンシングに関するこのリリースでの新機能と変更点について説明します。

## CoordPoint エージェントの拡張

CoordPoint エージェントは、VxVM 管理コマンドの不注意な実行によるコーディネータディスクグループからのディスクの削除や、ディスクの VxVM プライベートリージョンの破壊など、コーディネータディスクグループの構成の変更を監視します。

エージェントは CoordPoint リソースの詳細な監視を実行し、障害を報告します。ユーザーはこのリリースで導入された `LevelTwoMonitorFreq` 属性を設定することで、詳細な監視の頻度を調整できます。たとえば、この属性に 5 を設定すると、エージェントは 5 番目の監視サイクルごとにコーディネータディスクグループの構成を監視します。

CoordPoint エージェントについて詳しくは、『Veritas Cluster Server 付属エージェントリファレンスガイド』を参照してください。

スクリプトベースのインストーラを使った CoordPoint エージェントの設定と、コーディネータディスクを監視するための CoordPoint エージェントの手動設定については、『Veritas Cluster Server インストールガイド』を参照してください。

クラスタがオンラインのときの I/O フェンシングコーディネータディスクまたはコーディネータディスクグループの置き換えについては、『Veritas Cluster Server 管理者ガイド』を参照してください。

## システム必要条件

ここでは、このリリースのシステムの必要条件について説明します。

## サポート対象の Linux オペレーティングシステム

ここでは、このリリースの Veritas 製品のサポート対象オペレーティングシステムを一覧表示します。

表 1-1 では、このリリースのサポート対象のオペレーティングシステムを示しています。

表 1-1 サポート対象のオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	レベル	カーネルバージョン	チップセット
Red Hat Enterprise Linux 6	アップデート2、3	2.6.32-220.el6 2.6.32-279.el6	64 ビット x86、EMT*/Opteron 4.1 の 64 ビットのみ
Red Hat Enterprise Linux 5	アップデート5、6、7、8	2.6.18-194.el5 2.6.18-238.el5 2.6.18-274.el5 2.6.18-308.el5	64 ビット x86、EMT*/Opteron 4.1 の 64 ビットのみ



オペレーティングシステム	レベル	カーネルバージョン	チップセット
SUSE Linux Enterprise 11	SP1、SP2	2.6.32.12-0.7.1 3.0.13-0.27.1	64 ビット x86、 EMT*/Opteron 4.1 の 64 ビットのみ
SUSE Linux Enterprise 10	SP4	2.6.16.60-0.85.1	64 ビット x86、 EMT*/Opteron 4.1 の 64 ビットのみ
Oracle Linux 6	**6.2、6.3	2.6.32-220.el6 2.6.32-279.el6	64 ビット x86、 EMT*/Opteron
Oracle Linux 5	**アップデート 5、6、7、8	2.6.18-194.el5 2.6.18-238.el5 2.6.18-274.el5 2.6.18-308.el5	64 ビット x86、 EMT*/Opteron

\* 拡張メモリテクノロジー

\*\* RHEL 互換モードのみ。

**メモ:** 64 ビットオペレーティングシステムのみサポートされます。

ご使用のシステムが、より古いバージョンの Red Hat Enterprise Linux、SUSE Linux Enterprise Server または Oracle Linux を実行している場合は、Veritas ソフトウェアをインストールする前にそれらをアップグレードしてください。オペレーティングシステムのアップグレードと再インストールについて詳しくは、Red Hat、SUSE、または Oracle のマニュアルを参照してください。

シマンテック社では、Oracle、Red Hat、および SUSE で配布されたカーネルバイナリのみをサポートします。

シマンテック社製品は、前述のカーネルとパッチの後続リリース適用後も動作します。ただし、その場合は、オペレーティングシステムがカーネルの ABI (アプリケーションバイナリインターフェース) 互換を維持していることが条件です。

## SVS に必要な Linux RPM

SVS をインストールまたはアップグレードするシステムで、次のオペレーティングシステム固有の RPM をインストールしてください。SVS は、次の RPM が ABI との互換性を維持する前提で、次の RPM のすべてのアップデートをサポートします。

表 1-2 に、各 Linux オペレーティングシステムで SVS が必要とする RPM の一覧を示します。

表 1-2 必要な RPM

オペレーティングシステム	必要な RPM
RHEL 5	policycoreutils-1.33.12-14.8.el5.x86_64 parted-1.8.1-27.el5.i386 parted-1.8.1-27.el5.x86_64 glibc-2.5-58.i686 pam-0.99.6.2-6.el5_5.2.i386 libstdc++-4.1.2-50.el5.i386 libgcc-4.1.2-50.el5.i386 perl-5.8.8-32.el5_5.2.x86_64 glibc-2.5-58.x86_64 libacl-2.2.39-6.el5.i386 findutils-4.2.27-6.el5.x86_64 ncurses-5.5-24.20060715.x86_64 ed-0.2-39.el5_2.x86_64 coreutils-5.97-23.el5_4.2.x86_64 module-init-tools-3.3-0.pre3.1.60.el5_5.1.x86_64 readline-5.1-3.el5.x86_64 libgcc-4.1.2-50.el5.x86_64 libacl-2.2.39-6.el5.x86_64 libstdc++-4.1.2-50.el5.x86_64 openssl-0.9.8e-12.el5_5.7.x86_64 ksh-20100202-1.el5_5.1.x86_64

オペレーティングシステム	必要な RPM
RHEL 6	glibc-2.12-1.25.el6.i686 glibc-2.12-1.25.el6.x86_64 policycoreutils-2.0.83-19.8.el6_0.x86_64 parted-2.1-13.el6.x86_64 nss-softokn-freebl-3.12.9-3.el6.i686 libstdc++-4.4.5-6.el6.i686 libstdc++-4.4.5-6.el6.x86_64 libgcc-4.4.5-6.el6.i686 libgcc-4.4.5-6.el6.x86_64 pam-1.1.1-8.el6.i686 perl-5.10.1-119.el6.x86_64 findutils-4.4.2-6.el6.x86_64 ncurses-libs-5.7-3.20090208.el6.x86_64 ed-1.1-3.3.el6.x86_64 coreutils-8.4-13.el6.x86_64 module-init-tools-3.9-17.el6.x86_64 readline-6.0-3.el6.x86_64 libacl-2.2.49-4.el6.x86_64 openssl-1.0.0-10.el6.x86_64 ksh-20100621-6.el6.x86_64

オペレーティングシステム	必要な RPM
SLES 10	parted-1.6.25.1-15.35.15.x86_64 glibc-32bit-2.4-31.81.11.x86_64 pam-32bit-0.99.6.3-28.23.15.x86_64 libstdc++-4.1.2_20070115-0.32.53.x86_64 libgcc-4.1.2_20070115-0.32.53.x86_64 glibc-2.4-31.81.11.x86_64 libacl-32bit-2.2.41-0.15.x86_64 findutils-4.2.27-14.22.18.x86_64 ncurses-5.5-18.11.x86_64 ed-0.2-881.9.1.x86_64 coreutils-5.93-22.21.17.x86_64 module-init-tools-3.2.2-32.38.1.x86_64 libacl-2.2.41-0.15.x86_64 ksh-93t-13.17.19.x86_64
SLES 11	parted-1.8.8-102.21.8.x86_64 glibc-32bit-2.11.1-0.17.4.x86_64 pam-32bit-1.0.4-0.5.12.x86_64 libstdc++43-32bit-4.3.4_20091019-0.7.35.x86_64 libgcc43-32bit-4.3.4_20091019-0.7.35.x86_64 glibc-2.11.1-0.17.4.x86_64 libacl-32bit-2.2.47-30.34.29.x86_64 findutils-4.4.0-38.24.11.x86_64 libncurses5-5.6-90.55.x86_64 ed-0.2-1001.22.x86_64 coreutils-6.12-32.17.x86_64 module-init-tools-3.11.1-1.3.5.x86_64 libgcc43-4.3.4_20091019-0.7.35.x86_64 libacl-2.2.47-30.34.29.x86_64 libstdc++43-4.3.4_20091019-0.7.35.x86_64 ksh-93t-9.9.8.x86_64

## サポートされる VMware ソフトウェアバージョン

- VMware vSphere 4 (ESX 4.0 Update 1 以降と vCenter Server 4.0 Update 1 以降)
- VMware vSphere 4.1 (ESX 4.1 以降と vCenter Server 4.1 以降)
- VMware vSphere 5.0 (ESX 5.0 以降と vCenter Server 5.0 以降)

## クローン作成時にゲストオペレーティングシステムカスタマイズでサポートされるゲストオペレーティングシステム

- Windows XP
- Windows Server 2003
- Windows 7
- Windows Server 2008
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL 5)
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL 6)
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES 10)
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES 11)

---

**メモ:**一部のゲストオペレーティングシステムとバージョンのカスタマイズには、vCenter Server が十分新しいバージョンであることが必要となります。詳しくは『[http://www.vmware.com/pdf/vsphere4/r40/vsp\\_compatibility\\_matrix.pdf](http://www.vmware.com/pdf/vsphere4/r40/vsp_compatibility_matrix.pdf)』を参照してください。

---

## クローン作成時の VMware View 統合でサポートされるゲストオペレーティングシステム

- Windows XP
- Windows 7

## サポート対象の Citrix XenDesktop バージョン

- Citrix XenDesktop 5

## 修正済みの問題

ここでは、このリリースで修正されたインシデントについて説明します。

## Symantec VirtualStore の修正済みの問題

このリリースで修正された Symantec VirtualStore の問題はありません。

## Veritas File System の修正済みの問題

このセクションでは、このリリースの Veritas File System で修正されたインシデントについて説明します。

表 1-3 Veritas File System の修正済みの問題

インシデント	説明
2764861	vxcompress による圧縮解除でクォータ制限が無視されます。
2753944	ファイル作成スレッドがハングすることがあります。
2735912	fsppadm enforce を使った階層再配置のパフォーマンスが、多数のファイルを移動するときに低下します。
2712392	VxFS でスレッドがハングします。
2709869	vx_free() で fiostat の解放を試みたときに、システムが redzone 違反でパニックします。
2684573	いくつかのチェックポイントが削除されると、VRTScavf パッケージに対する cfsumount(1M) コマンドのパフォーマンスが低下します。
2682550	マウント解除の処理中、NFS 経由で VxFS ファイルシステムにアクセスすると、Linux でシステムパニックが発生する可能性があります。
2674639	-p オプションを指定して cp(1) コマンドを実行する場合、FCL (File Change Log) 機能が有効になっているファイルシステムでは失敗することがあります。次のエラーメッセージが表示されます: cp: 「file_name」の権限を設定中 (setting permissions for 'file_name'): 入出力エラー (Input/output error) cp: 「file_name」の権限を保存中 (preserving permissions for 'file_name'): 使用可能なデータはありません (No data available)。
2670022	重複したファイル名がディレクトリ内にある場合があります。
2655788	CDS (cross-platform data sharing) を使用して、32,000 以上の nlink を持つファイルシステムを変換すると、vx_maxlink および maxlink_enable チューニングパラメータが更新されません。

インシデント	説明
2651922	VxFS ファイルシステム上での <code>ls -l</code> コマンドの実行速度が遅く、CPU 使用率が高くなります。
2597347	1つのデバイレコードのみ破損しており、レプリカは破損していない場合、 <code>fsck</code> はコアダンプを出力しないはずですが。
2584531	<code>vxfs</code> が、 <code>ls</code> 、 <code>du</code> 、 <code>find</code> でハングします。
2583197	パーティションディレクトリおよび <b>Storage Checkpoints</b> が存在するファイルシステムでディスクレイアウトバージョン 8 を 9 にアップグレードすると、読み取り専用ファイルシステムであるとのエラーメッセージが返されることがあります。
2566875	クォータ限度を超過する <code>write(2)</code> 操作が、ユーザーのクォータ限度に達する前に、 <code>EDQUOT</code> エラー (ディスククォータ超過) で失敗します。
2559450	コマンド <code>fsck_vxfs (1m)</code> は、 <code>SEGV_ACCERR</code> エラーでコアダンプを出力することがあります。
2536130	<code>FCL</code> が有効になっている場合、 <code>fsdscconv</code> が特定のプラットフォーム間での FS 変換に失敗します。
2272072	<code>VCS</code> エンジンの <code>HAD</code> が応答しなかったため、 <code>GAB</code> がボックスでパニックを発生させます。 <code>lobolt</code> が折り返します。
2086902	<code>Spinlock</code> が <code>vxfs</code> の <code>spinlock</code> で長時間保持され、多くの競合が生じます。
1529708	<code>vxrepquota</code> の出力に形式の問題があります。

## Veritas File System: 6.0 RP1 の修正済みの問題

ここでは、Veritas File System 6.0 RP1 で解決したインシデントについて説明します。

表 1-4 Veritas File System 6.0 RP1 の修正済みの問題

修正済みの問題	説明
2679361	I18N-level0 環境では、ネットワークカスタマイズの画面に <code>NIC</code> が表示されません。
2678096	カウント値が 0 のとき、 <code>fiostat</code> コマンドによりコアダンプが出力されます。
2672201	特定のコマンドがカーネルによってブロックされ、 <code>EACCES(ERRO = 13)</code> が発生します。
2672148	<code>-v</code> オプションを指定して <code>vxdelestat (1M)</code> を起動すると、無限ループとなります。

修正済みの問題	説明
2663750	<b>cvm</b> 耐性シナリオで完全なストレージの障害が発生した後、エンジンログにメッセージが出力されます。
2660761	クラスタをマウントしたファイルシステムで、 <b>SmartMove</b> 機能の実行中にメモリ破損が検出されます。
2655786	共有エクステントは、レプリケーションプロセスでは共有としては転送されません。
2655754	スピンドックの割り込みレベルが正しくないため、デッドロックが発生し、その時点で、遅延した割り当てリストがロックされます。
2653845	<b>-r</b> と <b>-R</b> オプションを指定して <b>fsckptadm(1M)</b> コマンドを実行すると、相互排他的な 2 つのオプションが同時に実行されます。
2649367	<b>NULL</b> ポインタの参照解除のため、 <b>vx_fopen</b> でカーネルクラッシュが発生します。
2646936	ソースファイルシステムに共有エクステントが存在すると、レプリケーションプロセスによりコアダンプが出力されます。
2646930	<b>nfs</b> 共有ファイルシステムで <b>I/O</b> の実行中、権限拒否エラー ( <b>EACCES</b> ) が発生します。
2645435	<b>fsmmap(1M)</b> コマンドの実行中、エラーメッセージ <b>UX:vxfs fsmap: ERROR: V-3-27313</b> が表示されました。
2645112	共有の圧縮済みエクステントにマッピングされた通常のファイルで書き込み操作を実行すると、破損が生じます。
2645109	<b>vxfilesnap</b> コマンドの実行が成功した場合で、 <b>filesnap</b> 操作を行った後、短時間のうちにソースファイルが削除されると、対象ファイルが破損して、スーパーブロックの <b>VX_FULLFSCK</b> フラグが設定されることがまれにあります。
2645108	特定の場合には、最終割り当てエクステントとして共有エクステントを所有する通常のファイルに書き込みを行うと、 <b>EIO</b> エラーが発生することがあります。
2634483	<b>RHEL6U1</b> で、 <b>VxFS /proc</b> 隠しインターフェースへの書き込みを行うと、 <b>EINVAL</b> エラーが発生します。
2630954	内部 <b>CFS</b> ストレス再構成テスト中に <b>fsck(1M)</b> コマンドが終了します。
2613884	リカバリ後、メタデータの破損が検出されることがあります。
2609002	重複排除セッションが完了していません。
2599590	<b>fsadm(1M)</b> コマンドを使って <b>DLV5</b> ファイルシステムの拡張または縮小を行うと、システムパニックが引き起こされます。



修正済みの問題	説明
2583197	ファイルシステムをバージョン 8 から 9 にアップグレードすると、パーティションディレクトリとクローンの表示に失敗します。
2552095	<code>fsadm(1M)</code> コマンドを使ってファイルシステムを再構成しているときにシステムがパニックを引き起こすことがあります。
2536130	破損したファイルシステムや VxFS 以外のファイルシステムの変換に <code>fscdscconv(1M)</code> コマンドを使うと、コアが生成されます。
2389318	小さいファイルシステムで遅延した割り当てを有効にするとファイルシステムが無効になることがあります。

## インストールとアップグレードに関連した解決済みの問題

ここでは、インストールとアップグレードに関連していて、このリリースで解決されたインシデントについて記します。

表 1-5 インストールとアップグレードに関連した解決済みの問題

インシデント	説明
2627076	クロック同期問題があると不正確なサーバー名が表示されることがあります。
2585899	RHEL で、ノード名のみを使う代わりに FQDN を使うと、OCR と投票ディスクのストレージを作成できません。
2526709	5.1SP1 から 6.0 にアップグレードした後、DMP-OSN のチューニングパラメータ値が永続化されません。
2088827	製品の移行時に、インストーラがディスク容量の使用を過大予想します。

## インストールとアップグレード: 6.0 RP1 で解決した問題

6.0RP1 ではインストールとアップグレードについて新しく解決したインシデントはありません。

## 既知の問題

ここでは、このリリースの既知の問題について説明します。

## Symantec VirtualStore の問題

### クラスタノードでパニックが発生する場合がある(2524087)

SLES 10 SP4 では、iSCSI イニシエータがターゲットから LUN にアクセスしているときに、クラスタノードでパニックが発生する場合があります。

回避策

現時点では回避策はありません。

### CFS コマンドは root 以外によって実行された場合にハングアップすることがある(2403263)

CFS コマンドは root 以外によって実行された場合にハングアップすることがあります。

回避策

この問題を解決するには

- ◆ root 以外のセッションでは、CFS コマンドを実行する前に、認証情報を保存する `halogin` コマンドを使用してください。  
`halogin` コマンドを実行すると、VCS は暗号化されたログイン情報をユーザーのホームディレクトリに格納します。

### CNFS 共有の設定中に NFS リソースがオンラインにならないことがある(2488685)

SELinux が `enforcing` または `permissive` として設定されている場合、CNFS 共有の `cfsnfssg` サービスグループの設定中に NFS リソースはオンラインにならず、`FAULTED` 状態になることがあります。

サンプル出力:

```
# hastatus -sum

-- SYSTEM STATE
-- System                State                Frozen

A  swlx14                 RUNNING             0

-- GROUP STATE
-- Group                 System   Probed   AutoDisabled   State

B  cfsnfssg              swlx14   Y        N              OFFLINE|FAULTED
B  cfsnfssg_dummy       swlx14   Y        N              OFFLINE
```

```

B   cvm                swlx14   Y           N           ONLINE
B   vipl               swlx14   Y           N           OFFLINE

-- RESOURCES FAILED
-- Group              Type                Resource        System

D   cfsnfssg          NFS                 nfs             swlx14

```

#### 回避策

この問題を解決するには、SELinux の信頼済みデバイスのリストにイーサネットポートを追加する必要があります。

- [System Setup] で [Firewall configuration]、[customize] の順に選択します。
- [Trusted device] で [Ethernet port] を選択します。

### VirtualStore クラスターの再ブート中に作成された VirtualStore マシンクローンが起動しないことがある (2164664)

SVS ノードの再ブート中にクローンを作成するときに、次のようなエラーメッセージが出力されることがあります。

```
clone vms could not start X server
```

#### 回避策

ノードのクラッシュ中に作成されたすべてのクローンを削除し、クローン操作を再実行してください。

### クローンを作成できないことがある (2348628)

クローンを作成できず、VMware の vApp テンプレートと OVF テンプレートを使用している場合は、vApp を無効にする必要があります。

#### 回避策

vApp を無効にするには

- 1 VI クライアントで仮想マシンを右クリックし、[設定の編集 (Edit Settings)]、[オプション (Options)]、[vApp オプション (vApp Options)] の順に選択します。
- 2 [無効化 (Disable)] をクリックします。

## 仮想マシンに対して NDMP または NBU のインテリジェントバックアップが必要である (2378396)

NDMP クライアントまたは NBU クライアントを使って仮想マシンをバックアップする際に消費される領域は、仮想マシンのディスク領域が一部しか使われていない場合でも、仮想マシンのディスクサイズと同じになります。

仮想マシンディスク (VMDK) ファイルのサイズが 10 GB であり、ディスク領域が 1 GB しか使われていない場合、元の VMDK ファイルに未割り当てのディスク領域が 9 GB も含まれていますが、NDMP クライアントまたは NBU クライアントによって実行されるバックアップでは 10 GB のバックアップデータが生成されます。

### 回避策

領域効率の高いバックアップを作成するには、VMware 固有のバックアップアプリケーション (NetBackup for VMware など) を使います。

## 複数のインスタンスが開いていると Symantec Quick Clone Virtual Machine Wizard が期待どおりに動作しないことがある (2309702)

単一の vSphere クライアントからウィザードの複数のパラレルセッションを同時に起動した場合、期待どおりにウィザードが動作しないことがあります。

たとえば、次のような場合にこの問題が発生します。

- wingoldvm1 を右クリックしてウィザードを起動した。
- その直後に、slesgoldvm1 を右クリックしてウィザードを起動した。

この状況では、同じ vSphere クライアントからウィザードの 2 つのインスタンスが実行されているため、予期しない動作を招くことがあります。

### 回避策

この問題を解決するには

- ウィザードの両方のインスタンスを閉じます。
- ウィザードの 1 つの新しいインスタンスを再び開きます。

## クローンの作成中に FileStore クラスタノード、ESX サーバー、vCenter サーバーが再ブートされた場合、Symantec Quick Clone Virtual Machine Wizard によって作成された仮想マシンが正しくブートしないことがある (2164664、2374229)

ウィザードを使ってクローンを作成しているときに、次のいずれかのサーバーがクラッシュしたり再ブートされたりすると、クローンが正しく作成されないことがあります。

- FileStore ノード
- クローンが作成される ESX ホスト

#### ■ vCenter サーバー

作成されたクローンとして vCenter インベントリに表示されても、クローンのゲスト OS はブートできないことがあります。

#### 回避策

サーバーがクラッシュしたとき、またはサーバーが再ブートされたときに作成されたすべてのクローンを削除して、ウィザード操作を再試行します。

### クローンを作成するのに不適切なクラスタを選択してもエラーメッセージが表示されない(2372713)

複数の FileStore クラスタが同じ Virtual Center で登録されている場合、ゴールドデンイメージのクローンを作成するのに不適切なクラスタを選択しても、Symantec Quick Clone Virtual Machine Wizard によって警告メッセージは表示されません。この状況は、すべての FileStore クラスタが同じファイルシステムパス(/mnt など)をエクスポートしている場合に起こることがあります。ウィザードを使ってゴールドデンイメージのディスク(vmdks)のクローン作成を行う際に、不適切なクラスタが選択されたことを通知する事前の警告の代わりに、ウィザードの最後のページでエラーが表示されます。表示されるエラーは次のようになります。

```
/mnt/goldvm/goldvm.vmdk no such file or directory...
```

#### 回避策

この問題に対する回避策はありません。

### キーレスライセンスを有効にしても、インストーラで「Registering SVS license」と表示される

キーレスライセンスを有効にしても、インストール時に次のメッセージを含む出力が表示されます。

```
Registering SVS license
```

回避策:このメッセージは無害なので無視してください。製品はライセンスキーなしで正常にインストールされます。

## Veritas File System の既知の問題

この項では、Veritas File System (VxFS) のこのリリースでの既知の問題について説明します。

## NFS 上で同じターゲット名で複数回 FileSnap を作成すると「ファイルが存在します」エラーが発生することがある(2353352)

「ファイルが存在します」エラーは、NFS クライアントのキャッシュ動作の結果として発生します。リンク操作が成功しているため、NFS クライアントは、`file2::snap:vxfs:` といった指定されたターゲット名でファイルが作成されていると仮定します。その結果、NFS クライアントはこの名前でもファイルをキャッシュに保存します。

回避策: スナップショットが作成された後で、ターゲットファイルを削除します。これにより、NFS のクライアントに、強制的にキャッシュから名前を削除させます。次に例を示します。

```
# ln file1 file2::snap:vxfs:
# rm file2::snap:vxfs:
```

## 小さいファイルシステムで遅延した割り当てを有効にするとファイルシステムが無効になることがある(2389318)

小さいファイルシステム(約 100 MB)で遅延した割り当てを有効にすると、ファイルシステムが無効になることがあります。この場合、次のエラーメッセージが出て、システムコンソールログに表示されます。

```
mesg 001: V-2-1: vx_nospace - file_system file system full
(size block extent)
```

回避策: `vxtunefs` コマンドで、ファイルシステムの遅延した割り当てを無効にしてください。

## 遅延した割り当ては、マルチボリュームファイルシステムのボリュームの 1 つの使用率が 100% 近くになっていると、他のボリュームに空き容量があっても、自動的にオフになることがある(2438368)

遅延した割り当ては、マルチボリュームファイルシステムのボリュームの 1 つの使用率が 100% 近くになっていると、ファイルシステムの他のボリュームに空き容量があっても、自動的にオフになることがあります。

回避策: ボリュームに十分な空き容量ができれば、遅延した割り当ては自動的に再開します。

## RHEL6 では、コンソールにタスクがブロックされているとのメッセージが表示される(2560357)

RHEL6 で、カーネルは次の例と似たメッセージをコンソールに表示することがあります。

```
INFO: task seq:16957 blocked for more than 120 seconds.
```

これらのメッセージは、タスクがスリープブロックで長い時間ブロックされるために表示されます。ただし、タスクがハングアップすることはない、メッセージは無視しても安全です。

回避策: 次のコマンドを使用すればこれらのメッセージを無効にできます。

```
# echo 0 > /proc/sys/kernel/hung_task_timeout_secs
```

## 重複排除はエラー 110 で失敗することがある(2591473)

ある場合には、データ重複排除は次の例のようなメッセージを出して失敗します。

```
Saving      Status      Node          Type          Filesystem
-----
00%         FAILED      node01        MANUAL        /data/fs1
                2011/10/26 01:38:58 End full scan with error
```

さらに、重複排除のログには次の例のようなエラーが記録されます。

```
2011/10/26 01:35:09 DEDUP_ERROR AddBlock failed. Error = 110
```

これらのエラーは、空き容量の少ない状態で重複排除処理が実行されたこと、そして完了するにはより多くの空き容量が必要であることを示しています。

回避策: ファイルシステムで、より多くの容量を空けてください。

## vxresize はファイルシステムの縮小の際「ブロックが現在使用中」エラーで失敗する(2437138)

vxresize の縮小操作は、ファイルシステム上でアクティブな I/O が進行中で、縮小目標サイズがファイルシステムの現在の使用状況に近いときに失敗します。次の例のようなメッセージが表示されます。

```
UX:vxfs fsadm: ERROR: V-3-20343: cannot shrink /dev/vx/rdisk/dg1/voll -
blocks are currently in use.
VxVM vxresize ERROR V-5-1-7514 Problem running fsadm command for volume
voll, in diskgroup dg1
```

回避策: I/O が停止した後で縮小操作を再実行してください。

## LLT の既知の問題

ここでは、LLT に関するこのリリースでの既知の問題について説明します。

### UDP 上の LLT を使うクラスタへのノードの追加に CPI 応答ファイルを使えない(2869763)

addnode -responsefile コマンドを実行するときに、クラスタが UDP 上の LLT を使っていると、新しいノードで生成される /etc/llttab ファイルが正しくなりません。そのため、この手順は失敗し、CPI 応答ファイルを使ってクラスタにノードを追加できません。

回避策: ありません。

## GAB の既知の問題

ここでは、GAB に関するこのリリースでの既知の問題について説明します。

## I/O フェンシングの既知の問題

ここでは、I/O フェンシングに関するこのリリースでの既知の問題について説明します。

### CP サーバーにクラスタの詳細が存在しない場合、VxFEN は既存のスプリットブレインについてのメッセージを出して、失敗する (2433060)

サーバーベースの I/O フェンシングを開始するとき、ノードがクラスタに参加せず、ログファイルに次のようなエラーメッセージを記録することがあります。

```
/var/VRTSvcs/log/vxfen/vxfen.log ファイル
```

```
VXFEN vxfenconfig ERROR V-11-2-1043  
Detected a preexisting split brain. Unable to join cluster.
```

```
/var/VRTSvcs/log/vxfen/vxfen.log ファイル
```

```
operation failed.  
CPS ERROR V-97-1400-446 Un-authorized user cpsclient@sys1,  
domaintype vx; not allowing action
```

アプリケーションクラスタの vxfend デーモンは、コーディネーションポイントサーバー (CP サーバー) に対して、GAB のメンバーシップに属するクラスタメンバーが CP サーバーに登録されているかどうかをチェックするようにクエリーします。アプリケーションクラスタが何らかの理由で CP サーバーに接触できなかった場合、フェンシングは CP サーバー上の登録を判断できず、予防的にすでにスプリットブレインが発生していると想定します。

回避策: アプリケーションクラスタで VxFEN を開始する前に、クラスタ名、UUID、ノード、権限などのクラスタ詳細が CP サーバーに追加されていることを確認します。

### vxfenswap ユーティリティは RSH の制限事項によるコーディネーションポイントの検証エラーを検出しない (2531561)

vxfenswap ユーティリティは、コーディネーションポイントの検証のため、クラスタの各ノード上で RSH または SSH により vxfenconfig -o modify コマンドを実行します。RSH を使用して (-n オプションを付けて) vxfenswap コマンドを実行した場合、RSH はノードのコーディネーションポイントの検証エラーを検出しません。vxfenswap はこのポイントから、検証がすべてのノードで成功だったように続行します。しかし後の段階で、VxFEN



ドライバへの新しいコーディネーションポイントのコミットを試みるときに失敗します。エラーの後には、全体の操作をロールバックし、ゼロ以外のエラーコードを返して正常に終了します。SSH を使用して (-n オプションなしで) `vxfen` を実行した場合には、SSH はコーディネーションポイントの検証エラーを正しく検出し、全体の操作をすぐにロールバックします。

回避策: `vxfen` ユーティリティを SSH で (-n オプションなしで) 使います。

## フェンシングが再ブート後にノードの 1 つで起動しない (2573599)

VxFEN の設定解除でカーネルでの処理が完了していないときに VxFEN の起動を試みた場合、`/var/VRTSvcs/log/vxfen/vxfen.log` ファイルに次のエラーが出されます。

```
VXFEN vxfenconfig ERROR V-11-2-1007 Vxfen already configured
```

ただし、`gabconfig -a` コマンドの出力にはポート `b` は表示されません。`vxfenadm -d` コマンドは次のエラーを表示します。

```
VXFEN vxfenadm ERROR V-11-2-1115 Local node is not a member of cluster!
```

回避策: しばらくしてから再び VxFEN を開始します。

## CP サーバーが利用不能な IP アドレスを繰り返しログに記録する (2530864)

コーディネーションポイントサーバー (CP サーバー) が、`vxcps.conf` ファイルに記されている、またはコマンドラインから動的に追加された、どの IP アドレスからも応答を受けなかった場合、CP サーバーは、障害を示すため、定期的な間隔でログにエラーを記録します。ログの記録は、IP アドレスが正常にバインドされるまで続きます。

```
CPS ERROR V-97-51-103 Could not create socket for host  
10.209.79.60 on port 14250
```

```
CPS ERROR V-97-1400-791 Coordination point server could not  
open listening port = [10.209.79.60]:14250  
Check if port is already in use.
```

回避策: `cpsadm` コマンドの `rm_port` アクションを使って、問題となっている IP アドレスを、応答を待機している IP アドレスのリストから削除します。

詳しくは、『Symantec VirtualStore 管理者ガイド』を参照してください。

## クラスタノードが CP サーバーに登録されていなくてもフェンシングポート b が数秒間可視になる(2415619)

クラスタノードが CP サーバーに登録されていない状態で、コーディネーションポイントサーバー (CP サーバー) の情報をクラスタノードの `vxfenmode` に設定し、フェンシングを開始すると、フェンシングポート `b` が数秒間可視になり、それから消えます。

回避策: この問題を解決するには、CP サーバーにクラスタ情報を手動で追加します。また、インストーラを使用することもできます。インストーラは設定時に、クラスタ情報を CP サーバーに追加します。

## cpsadm コマンドは LLT がアプリケーションクラスタで設定されていない場合には失敗する(2583685)

`cpsadm` コマンドは、`cpsadm` コマンドを実行するアプリケーションクラスタノードで LLT が設定されていない場合は、コーディネーションポイントサーバー (CP サーバー) と通信できません。次のようなエラーが表示されます。

```
# cpsadm -s 10.209.125.200 -a ping_cps
CPS ERROR V-97-1400-729 Please ensure a valid nodeid using
environment variable
CPS_NODEID
CPS ERROR V-97-1400-777 Client unable to communicate with CPS.
```

ただし、CP サーバー上で `cpsadm` コマンドを実行すれば、CP サーバーをホストしているノードで LLT が設定されていなくても、この問題は起こりません。CP サーバーノード上の `cpsadm` コマンドは、LLT が設定されていない場合は、常に LLT ノード ID が 0 であると想定します。

CP サーバーとアプリケーションクラスタ間のプロトコルに従えば、アプリケーションクラスタノード上で `cpsadm` を実行した場合、`cpsadm` はローカルノードの LLT ノード ID を CP サーバーに送信する必要があります。しかし、LLT が一時的に設定解除されていた場合、またはノードが LLT が設定されないシングルノード VCS 設定である場合には、`cpsadm` コマンドは LLT ノード ID を取得できません。そのような状況では、`cpsadm` コマンド失敗します。

回避策: `CPS_NODEID` 環境変数の値を 255 に設定します。`cpsadm` コマンドは、LLT から LLT ノード ID を取得できなかった場合には、`CPS_NODEID` 変数を読み込んで、続行します。

## サーバーベースのフェンシングはデフォルトポートが指定されていない場合に間違っただけで起動する(2403453)

フェンシングをカスタマイズモードで設定した場合には、デフォルトのポートを指定しなくても、フェンシングは起動します。しかし、`vxfenconfig -l` コマンドではポート番号が出力されません。

回避策: 少なくとも 1 台の CP サーバーでカスタマイズされたフェンシングを使用する場合には、`/etc/vxfenmode` ファイル内に「`port=<port_value>`」の設定を残しておいてください。ポートのデフォルト値は 14250 です。

### 30 秒の間隔をカスタマイズできない(2551621)

`vxcperv` プロセスは、起動時に IP アドレスにバインドすることができなかった場合、30 秒間隔でその IP アドレスへのバインドを試みます。この間隔は設定可能ではありません。

回避策: この問題に対する回避策はありません。

### configure\_cps.pl スクリプトで CPSSG を設定する際に NIC リソースが間違った名前で作成される(2585229)

`configure_cps.pl` スクリプトによって作成される NIC のリソースの名前が適切でない場合があります。たとえば、`m` 番目の VIP が `n` 番目の NIC にマップされ、`m` と `n` とが必ずしも同じでない場合です。この場合、CPSSG は問題なく動作し続けますが、`configure_cps.pl` を使って CPSSG を設定解除しようとする、失敗します。

回避策: CPSSG を設定解除するためには、VCS の設定から CPSSG の設定を削除する必要があります。

### CP サーバーをセキュアモードで 6.0 以降にアップグレードした後に cpsadm コマンドが失敗する(2846727)

`cpsadm` コマンドは、コーディネーションポイントサーバー (CP サーバー) をセキュアモードで 6.0 にアップグレードした後に失敗することがあります。古い VRTSat RPM をシステムから削除していないと、`cpsadm` コマンドは、システムに存在するその古いセキュリティバイナリを読み込みます。インストーラが CP サーバーで `cpsadm` コマンドを実行し、SVS クラスタ (アプリケーションクラスタ) を追加またはアップグレードすると、インストーラも失敗します。

回避策: CP サーバーのすべてのノードで次の手順を実行します。

この問題を解決するには

- 1 cpsadm という名前を cpsadmbin に変更します。

```
# mv /opt/VRTScps/bin/cpsadm /opt/VRTScps/bin/cpsadmbin
```

- 2 次の内容で、ファイル /opt/VRTScps/bin/cpsadm を作成します。

```
#!/bin/sh
EAT_USE_LIBPATH="/opt/VRTScps/lib"
export EAT_USE_LIBPATH
/opt/VRTScps/bin/cpsadmbin "$@"
```

- 3 新しいファイルの権限を 775 に変更します。

```
# chmod 755 /opt/VRTScps/bin/cpsadm
```

## CoordPoint エージェントがコーディネータディスクグループへの新規ディスクの追加を報告しない [2727672]

コーディネータディスクグループに新しいディスクを追加したために、コーディネータディスクグループの構成要素に変更があった場合でも、CoordPoint エージェントの LevelTwo 監視は障害を報告しません。

回避策: この問題に対する回避策はありません。

## コーディネーションポイントサーバーベースのフェンシングは、6.0.1 のコーディネーションポイントサーバーを使って 5.1SP1RP1 で設定されている場合に失敗することがある (2824472)

5.1SP1 インストーラ (CPI) は、5.1SP1 にトラストストアの個別のディレクトリがないために、5.1SP1 クライアントと 6.0 以降のサーバーの間で信頼関係を設定できません。信頼関係を設定できないと、5.1SP1 インストーラは、セキュアモードで 5.1SP1 クライアントが 6.0 以降の CPS と連動するように設定できません。

回避策:

cpstat または vcsat コマンドを使って CPS とクライアントとの間の信頼関係を手動で設定してください。これにより、CPS とクライアントはセキュアモードで正しく通信できます。

## CoordPoint エージェントの FaultTolerance 属性の上限値はコーディネーションポイントの過半数を下回っている必要があります。(2846389)

CoordPoint エージェントの FaultTolerance 属性の上限値はコーディネーションポイントの過半数を下回っている必要があります。現在この値はコーディネーションポイント数未満です。

## CP サーバーではホスト名とユーザー名の大文字と小文字が区別される(2846392)

CP サーバーのホスト名とユーザー名は、大文字と小文字が区別されます。CP サーバーと通信するためにフェンシングが使うホスト名とユーザー名は、大文字と小文字が CP サーバーデータベース内の文字と同じである必要があり、異なる場合はフェンシングを開始できません。

回避策:ホスト名とユーザー名に、CP サーバーと大文字と小文字が同じ文字を使うようにしてください。

## 仮想マシンはストレージのドメインが非アクティブであり、データセンターが停止している場合に「応答なし」の状態を返すことがある(2747177)

Red Hat Enterprise 仮想化環境では、ストレージドメインが非アクティブな状態にあり、データセンターが停止状態にある場合、仮想マシンが「応答なし」の状態を返し、KVMGuest リソースがオフライン状態になることがあります。

回避策:この問題を解決するには、次を実行してください。

- 1 RHEV-M のストレージドメインをアクティブにします。
- 2 データセンターが稼働状態にあること確認します。

## VRTSvxfen パッケージがシステムにインストールされていない場合、インストールメディアから vxfentsthdw ユーティリティを直接実行できない(2858190)

VRTSvxfen パッケージがシステムにインストールされていない場合、vxfentsthdw ユーティリティが機能するために必要な特定のスクリプトファイルが使用可能になりません。そのため、システムに VRTSvxfen パッケージがインストールされていないと、このユーティリティをインストールメディアから実行できません。

回避策:VRTSvxfen パッケージをインストールしてから、インストールメディアまたは /opt/VRTSvcs/vxfen/bin/ からユーティリティを実行してください。

## VRTSvxfen パッケージをインストールする前に vxfentsthdw ユーティリティが起動しない(2858190)

VRTSvxfen パッケージをインストールするまでは、vxfentsthdw ユーティリティを格納する /etc/vxfen.d/script/vxfen\_scriptlib.sh のファイルが存在しません。この場合、このユーティリティは実行されません。

回避策:

VRTSvxfen パッケージをインストールすることに加え、インストール DVD から vxfentsthdw ユーティリティを直接実行してください。

## 共通の製品インストーラはリリースバージョン 5.1SP1 のクライアントシステムとリリースバージョン 6.0 以降のサーバーの間で信頼関係を設定できない(2824472)

この問題は、5.1SP1 リリースバージョンがトラストストアの個別のディレクトリをサポートしていないために発生します。しかし、リリースバージョン 6.0 以降はトラストストアの個別のディレクトリをサポートしています。このトラストストアのサポートの不一致が原因で、クライアントシステムとサーバーとの間の信頼関係を設定できません。

回避策: cpsat または vcsat コマンドを使ってコーディネーションポイントサーバーとクライアントシステムとの間の信頼関係を手動で設定してください。これにより、サーバーとクライアントシステムはセキュアモードで通信できます。

## スタックの再インストール後、サーバーベースのフェンシングは開始に失敗することがある(2802682)

スタックの再インストール後、既存の設定ファイルを使う場合、サーバーベースのフェンシングは開始に失敗することがあります。

回避策:

スタックの再インストール後、スタックがアンインストールされるときにクライアントクラスタ情報が削除されるため、コーディネーションポイントサーバーのクライアントクラスタ情報を追加する必要があります。詳しくは、『Symantec VirtualStore インストールガイド』のサーバーベースの I/O フェンシングを手動で設定する方法の項を参照してください。または、手動で /etc/vxfenmode ファイルと main.cf ファイルを修正し、無効モードでフェンシングを開始してから、フェンシングを設定できます。

## インストールの既知の問題

ここでは、インストール時とアップグレード時の既知の問題について説明します。

### 誤った resstatechange トリガの警告

リソースを再起動するときに、次の警告が表示されることがあります。

CPI WARNING V-9-40-4317 The installer has detected that resstatechange trigger is configured by setting TriggerResStateChange attributes.

回避策:

将来のリリースでは、**resstatechange** トリガはリソースが再起動するときに呼び出されません。その代わりに、**resrestart** トリガは **TriggerResRestart** 属性で設定した場合に呼び出されます。**resrestart** トリガは現在のリリースで利用可能です。詳しくは、VCS のマニュアルを参照してください。

### アンインストーラがスクリプトをすべては削除しない(2696033)

SVS の削除後、RC の一部のスクリプトが `/etc/rc*.d/` フォルダに残ります。これは RHEL6 とアップデートの **chkconfig rpm** の問題が原因です。`/etc/rc*.d/` フォルダから **VxVM** パッケージを削除した後で、スクリプトを手動で削除できます。

回避策:

**chkconfig-1.3.49.3-1** **chkconfig rpm** を RedHat のポータルからインストールしてください。次のリンクを参照してください。

<http://grokbase.com/t/centos/centos/117pfne4zz/centos-6-0-chkconfig-strange-behavior>

<http://rhn.redhat.com/errata/RHBA-2012-0415.html>

### Web インストーラを停止するとデバイスがビジー状態であるというエラーメッセージが表示される(2633924)

Web インストーラを起動すると、操作(プレチェック、設定、アンインストールなど)が実行され、デバイスがビジー状態であることを知らせるエラーメッセージが表示されることがあります。

回避策: 次のいずれかを実行します。

- **start.pl** プロセスを終了します。
- Web インストーラを再度起動します。最初の Web ページで、セッションがアクティブであることが確認できます。このセッションをテイクオーバーして終了させるか、または直接終了させます。

### カプセル化されたブートディスクによる製品のアップグレード後に、オペレーティングシステムのアップグレードを行うと表示される特定のエラーを無視する(2030970)

カプセル化されたブートディスクによる製品のアップグレード後に、オペレーティングシステムのアップグレードを行うと表示される特定のエラーは無視してください。

カプセル化されたブートディスクによって行われた製品のアップグレード後に、オペレーティングシステムをアップグレードすると表示される次のエラーは無視してかまいません。以下に、エラーの例を示します。

```
The partitioning on disk /dev/sda is not readable by
The partitioning tool parted, which is used to change the
partition table.
You can use the partitions on disk /dev/sda as they are.
You can format them and assign mount points to them, but you
cannot add, edit, resize, or remove partitions from that
disk with this tool.
```

または

```
Root device: /dev/vx/dsk/bootdg/rootvol (mounted on / as reiserfs)
Module list: pilix mptspi qla2xxx silmimage processor thermal fan
reiserfs aedd (xennet xenblk)
```

```
Kernel image: /boot/vmlinuz-2.6.16.60-0.54.5-smp
Initrd image: /boot/initrd-2.6.16.60-0.54.5-smp
```

オペレーティングシステムのアップグレードは失敗していません。このエラーメッセージによる影響はありません。

回避策: オペレーティングシステムをアップグレードする前に、(カプセル化されていないシステムから) `/boot/vmlinuz.b4vxvm` and `/boot/initrd.b4vxvm` ファイルを削除します。

## マスターノードのカーネルのアップグレードの終了後、スレーブノードの `cvm` グループがオンラインにならない (2439439)

あるノードでカーネルのアップグレードが正常に終了した後では、別のノードの `cvm` グループはオンラインになりません。

回避策: ローリングアップグレードを実行する前に、クラスタが `JEOPARDY` 状態になっていないか確認してください。

## ブラウザが開いたままの場合、Web インストーラは最初のセッションの後で認証を要求しない (2509330)

SVS をインストールまたは設定し、Web インストーラを閉じた後でも、他のブラウザウィンドウが開いていた場合には、Web インストーラはその後のセッションで認証を要求しません。Web インストーラからログアウトするオプションはないので、システム上でブラウザが開いている限り、セッションは開いたままになります。



回避策: すべてのブラウザウィンドウを閉じて、ブラウザセッションを終了し、その後でもう一度ログインしてください。

## ルータビリティを有効にした状態で Veritas Storage Foundation 5.1 Service Pack 1 Rolling Patch 2 から 6.0.1 にアップグレードすると失敗する(2581313)

カプセル化されたルートディスクを使用して、Veritas Storage Foundation (SF) 5.1 Service Pack (SP) 1 Rolling Patch (RP) 2 から 6.0.1 にアップグレードしようとする、失敗します。これは、Veritas Volume Manager (VxVM) のインストール後スクリプトが `initrd` デーモンを開始できないためです。

回避策: カプセル化ルートディスクを使用して 5.1 SP1 RP2 から 6.0.1 にアップグレードするには、アップグレードの前に、システムに `nash` ユーティリティを再インストールする必要があります。

カプセル化ルートディスクを使用して 5.1 SP1 RP2 から 6.0.1 にアップグレードするには

- 1 ルートディスクをカプセル化します。
- 2 `nash` ユーティリティを再インストールします。
- 3 SF 6.0.1 リリースにアップグレードします。

## アップグレードの途中でインストーラを停止した後、アップグレードを再開すると、サービスグループがフリーズすることがある [2574731]

サービスグループは、製品のインストーラを使用してアップグレードを開始し、インストーラがいくつかのプロセスを停止した後でインストーラを停止し、それからアップグレードを再開すると、フリーズします。

回避策: アップグレードが完了した後で、サービスグループを手動でアンフリーズしてください。

サービスグループを手動でアンフリーズするには

- 1 フリーズしたサービスグループすべてをリストします。

```
# hagr -list Frozen=1
```

- 2 フリーズしているサービスグループをすべてアンフリーズします。

```
# haconf -makerw
# hagr -unfreeze service_group -persistent
# haconf -dump -makero
```

## ロケール変更後、vxconfig デーモンを再起動する(2417547)

vxconfig デーモンを使用するノードのロケールを変更した場合、vxconfig デーモンを再起動する必要があります。vxconfig デーモンはブート時に開始します。ロケールを変更した場合、デーモンを再起動する必要があります。

回避策:『Veritas Storage Foundation Cluster File System High Availability 管理者ガイド』の「vxconfig デーモンのリカバリ」を参照してください。

## syslog エラーメッセージ(1630188)

ノード上の製品をインストールまたはアンインストールする場合、syslog (/var/log/message) に次の警告メッセージが表示される場合があります。これらの警告は無害であり、無視してかまいません。

```
Jul  6 10:58:50 swlx62 setroubleshoot: SELinux is preventing the
semanage from using potentially mislabeled files
(/var/tmp/installer-200907061052eVe/install.swlx62.VRTSvxvm). For
complete SELinux messages. run sealert -l ed8978d1-0b1b-4c5b-a086-
67da2a651fb3
Jul  6 10:58:54 swlx62 setroubleshoot: SELinux is preventing the
semanage from using potentially mislabeled files
(/var/tmp/installer-200907061052eVe/install.swlx62.VRTSvxvm). For
complete SELinux messages. run sealert -l ed8978d1-0b1b-4c5b-a086-
67da2a651fb3
Jul  6 10:58:59 swlx62 setroubleshoot: SELinux is preventing the
restorecon from using potentially mislabeled files
```

## NetBackup 6.5 以前のバージョンが VxFS ファイルシステムにインストールされている(2056282)

VxFS ファイルシステムに NetBackup 6.5 以前のバージョンがインストールされている場合、Veritas SF (Storage Foundation) にアップグレードする前に、NetBackup バイナリ (/usr/opensv) をホストしているものを含むすべての VxFS ファイルシステムをマウント解除すると、SF 6.0.1 へのアップグレード時に、インストーラは同じマシンに NetBackup がインストールされているかどうかをチェックできず、共有インフラストラクチャ RPMs VRTSspb、VRTSat、VRTSicsco をアンインストールします。これにより NetBackup は動作しなくなります。

回避策: NetBackup をホストする VxFS ファイルシステムをマウント解除する前に、/usr/opensv/netbackup/bin/version ファイルおよび /usr/opensv/netbackup/version ファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。クラスタ化された NetBackup をインストールしていた場合には、/usr/opensv/netbackup/bin/cluster/NBU\_RSP ファイルも /tmp ディレクトリにコピーする必要があります。NetBackup ファイルシステムをマウント解除した後、これらの

2 つのバージョンファイルを /tmp からもとのディレクトリに手動でコピーします。クラスタ化された NetBackup をインストールしていた場合に

は、/usr/opensv/netbackup/bin/cluster/NBU\_RSP ファイルも /tmp からもとのディレクトリにコピーする必要があります。

version ファイルディレクトリがない場合には、ディレクトリを作成してください。

```
# mkdir -p /usr/opensv/netbackup/bin
# mkdir -p /usr/opensv/netbackup/bin
```

インストーラを実行してアップグレード処理を終了します。アップグレード処理の完了後に、2 つのバージョンファイルとそのディレクトリを削除してください。

システムがすでにこの問題の影響を受けていた場合には、アップグレード処理の完了後に、VRTSspb、VRTSat、および VRTSicisco RPMs を手動でインストールしてください。

## カプセル化ルートディスクを使用して 5.1SP1 から 6.0.1 にアップグレードする際に、デポートされたディスクグループでターゲットディスクグループ名が使用されていた場合には、ルートミラーの分割が失敗する(2280560)

カプセル化ルートディスクを使用して SVS 5.1 SP1 から SVS 6.0.1 へアップグレードする際に、分割操作のターゲットディスクグループ名が、既存のデポートされたディスクグループで使用されていた場合には、ルートミラーの分割が失敗します。

回避策:

分割操作のターゲットには、異なるディスクグループ名を指定してください。

## 1 つ以上の CP サーバーに登録されたクラスタをインストーラが分割できない(2110148)

サーバーベースのフェンシングを使うクラスタの分割は、現時点でサポートされていません。

クラスタを 2 分割し、インストーラを使って 2 つのクラスタで Symantec VirtualStore HA を再設定することは可能です。たとえば、クラスタ *clus1* を *clus1A* と *clus1B* に分割することができます。

ただし、インストーラを使って Symantec VirtualStore HA を再設定する場合は、*clus1* と同じクラスタ UUID が *clus1A* と *clus1B* の両方で設定されます。*clus1A* と *clus1B* の両方が I/O フェンシングのために同じ CP サーバーを使う場合、CP サーバーは最初に登録を試みたクラスタからの登録のみを許可します。次に登録を試みたクラスタからの登録は拒否します。したがってインストーラは、サーバーベースのフェンシングを使うクラスタの再設定中に障害を報告します。

回避策: この問題に対する回避策はありません。

## マスターノードのカーネルのアップグレードの終了後、スレーブノードの cvm グループがオンラインにならない(2439439)

あるノードでカーネルのアップグレードが正常に終了した後では、別のノードの cvm グループはオンラインになりません。

回避策: ローリングアップグレードを実行する前に、クラスタが JEOPARDY 状態になっていないか確認してください。

## カプセル化されたブートディスクによる VxVM バージョン 6.0 からのアップグレードの後に、システムがブートに失敗する(2750782)

RHEL6 (Red Hat Enterprise Linux 6) で、6.0 からこれ以降のバージョンに VxVM (Veritas Volume Manager) をアップグレードするときに、RPM は、より新しいバージョンの VxVM のインストールスクリプトをまず実行します。その後で、VxVM 6.0 バージョンのアンインストールスクリプトを実行します。6.0 のアンインストールのスクリプトの不具合のため、より新しいバージョンでインストールされたファイルが破損します。これはブートエラーの原因となります。

回避策:

- 1 カプセル化されたルートディスクを unroot します。
- 2 VRTSvxvm (6.0) パッケージをアンインストールします。
- 3 より新しいバージョン (6.0 より上) の VRTSvxvm をインストールします。

## SmartMove が有効で、ブレイクオフスナップショットボリュームが再接続されると、Veritas File System モジュールのアンロードに失敗することがある(2851403)

SmartMove が有効であり、ブレイクオフスナップショットボリュームが再接続された場合、Veritas File System モジュールの vxportal と vxfs はアンロードに失敗することがあります。スナップショットの再接続によって、vxportal モジュールの参照数が増え、これが原因でモジュールのアンロードにエラーが発生します。

回避策:

vxportal モジュールをアンロードする前に、手動で Veritas Volume Manager モジュール (vxspec, vxio, vxdmp) をアンロードしてください。これにより、vxportal モジュールの参照数が減少します。

## SVS のインストールの完了時に Perl モジュールのエラーが発生する(2879417)

SVS をインストール、設定、アンインストールするときに、インストーラはオプションとしてシマンテック社の Web サイトにインストールログをアップロードするためのメッセージを表示します。インストーラで接続の問題が発生した場合、次のようなエラーが表示されます。

状態を読み取れません(Status read failed):

```
<midia_path>/../perl/lib/5.14.2/Net/HTTP/Methods.pm 行 269 の接続はピアによってリセットされます(Connection reset by peer at  
<midia_path>/../perl/lib/5.14.2/Net/HTTP/Methods.pm line 269)
```

回避策:

このエラーは無視してください。悪影響はありません。

## ソフトウェアの制限事項

6.0.1 リリースの Veritas Storage Foundation Cluster File System High Availability (SFCFSHA) のソフトウェア制限事項は、次のとおりです。

### VMware vSphere Extension for VirtualStore の制限事項

このリリースの VMware vSphere Extension for VirtualStore で認識されているソフトウェアの制限事項は、次のとおりです。

#### ウィザードの更新に対して F5 キーの使用がサポートされていない (2362940)

ウィザードの更新に対して F5 キーの使用はサポートされていません。

回避策

新しいデータまたは更新されたデータを取得するには、ウィザードを再起動する必要があります (F5 キーは使わない)。

#### VMware スナップショットを含む仮想マシンをゴールデンイメージとして使うことができない (2514969)

VMware スナップショットが格納されている仮想マシン (またはテンプレート) は、FileSnap ウィザードでクローンを作成するためのゴールデンイメージとして使うことができません。このような仮想マシン (またはテンプレート) を使うには、最初にスナップショットを削除してから FileSnap ウィザードを使います。

### レプリケーションソフトウェアの制限事項

次は Symantec VirtualStore のこのリリースでのレプリケーションソフトウェアの制限事項です。

## ソフトリンクアクセスと変更時間が VFR Job の場合に RHEL5 と SLES10 でレプリケートされない

RHEL5とSLES10でファイルのレプリケーションジョブが実行されているとき、ソフトリンクアクセスと変更時間はレプリケートされません。

## I/O フェンシングに関する制限事項

この項では、I/O フェンシングに関するソフトウェアの制限事項について説明します。

### VRTSvxvm をアンインストールすると、VxFEN が dmp のディスクポリシーと SCSI3 モードで設定された場合問題が生じる (2522069)

VxFEN を dmp のディスクポリシーと SCSI3 モードで設定した場合、コーディネータディスクの DMP ノードが、システム停止時またはフェンシングアービトレーションの間にアクセスされることがあります。VRTSvxvm RPM をアンインストールした後では、DMP のモジュールはもはやメモリに読み込まれません。VRTSvxvm が RPM アンインストールされたシステムでは、VxFEN がシステム停止時またはフェンシングアービトレーションの間に DMP デバイスにアクセスすると、システムパニックが発生します。

## マニュアル

マニュアルは、ソフトウェアメディアの /docs/<製品名> ディレクトリで PDF 形式で利用可能です。追加マニュアルはオンラインで入手できます。

マニュアルの最新版を使用していることを確認してください。マニュアルのバージョンは各ガイドの 2 ページ目に記載されています。マニュアルの発行日付は、各マニュアルのタイトルページに記載されています。最新の製品マニュアルはシマンテック社の Web サイトで入手できます。

<http://sort.symantec.com/documents>

## マニュアルセット

表 1-6 は Veritas Storage Foundation Cluster File System High Availability に関するマニュアルのリストです。

表 1-6 Veritas Storage Foundation Cluster File System High Availability のマニュアル

マニュアル名	ファイル名
Veritas Storage Foundation Cluster File System High Availability リリースノート	sfdfs_notes_601_lin.pdf

マニュアル名	ファイル名
Veritas Storage Foundation Cluster File System High Availability インストールガイド	sfdfs_install_601_lin.pdf
Veritas Storage Foundation Cluster File System High Availability 管理者ガイド	sfdfs_admin_601_lin.pdf

表 1-7 は Symantec VirtualStore に関するマニュアルのリストです。

表 1-7 Symantec VirtualStore のマニュアル

マニュアル名	ファイル名
Symantec VirtualStore リリースノート	virtualstore_notes_601_lin.pdf
Symantec VirtualStore インストール/設定ガイド	virtualstore_install_601_lin.pdf
Symantec VirtualStore Administrator's Guide	virtualstore_admin_601_lin.pdf

VOM (Veritas Operations Manager) を使用して Veritas Storage Foundation and High Availability 製品を管理する場合は、次の Web サイトにある VOM 製品のマニュアルを参照してください。

<http://sort.symantec.com/documents>

## マニュアルページ

Veritas Storage Foundation and High Availability Solutions 製品のマニュアルページは、/opt/VRTS/man ディレクトリにインストールされています。

man(1) コマンドで Veritas Storage Foundation マニュアルページを参照できるように、MANPATH 環境変数を設定します。

- Bourne シェルまたは Korn シェル (sh または ksh) の場合は、次のコマンドを入力します。

```
MANPATH=$MANPATH:/opt/VRTS/man
export MANPATH
```

- C シェル (csh または tcsh) の場合は、次のコマンドを入力します。

```
setenv MANPATH ${MANPATH}:/opt/VRTS/man
```

man(1) のマニュアルページを参照してください。

マニュアルページは、セクション 1、1M、3N、4、4M に分かれており、man(1) 設定ファイル /etc/man.config を編集してこれらのページを表示します。

### man(1) 設定ファイルを編集するには

- 1 **man** コマンドでマニュアルページにアクセスしている場合は、ユーザーのシェルで `LC_ALL` を「C」に設定し、ページが正しく表示されるようにします。

```
export LC_ALL=C
```

詳しくは、Red Hat Linux のサポート Web サイトのインシデント 82099 を参照してください。

- 2 `/etc/man.config` に次の行を追加します。

```
MANPATH /opt/VRTS/man
```

別の **man** パスもこの設定ファイルに指定されています。

- 3 新しいセクション番号を追加します。特定の行を変更します。

```
MANSECT          1:8:2:3:4:5:6:7:9:tcl:n:l:p:o
```

目的

```
MANSECT          1:8:2:3:4:5:6:7:9:tcl:n:l:p:o:3n:1m
```